

2022年4月26日

管理職につきたい女性社員は約半数

日系企業の約7割が「男性の方が昇進・昇格に結びつく仕事を任されている」と回答

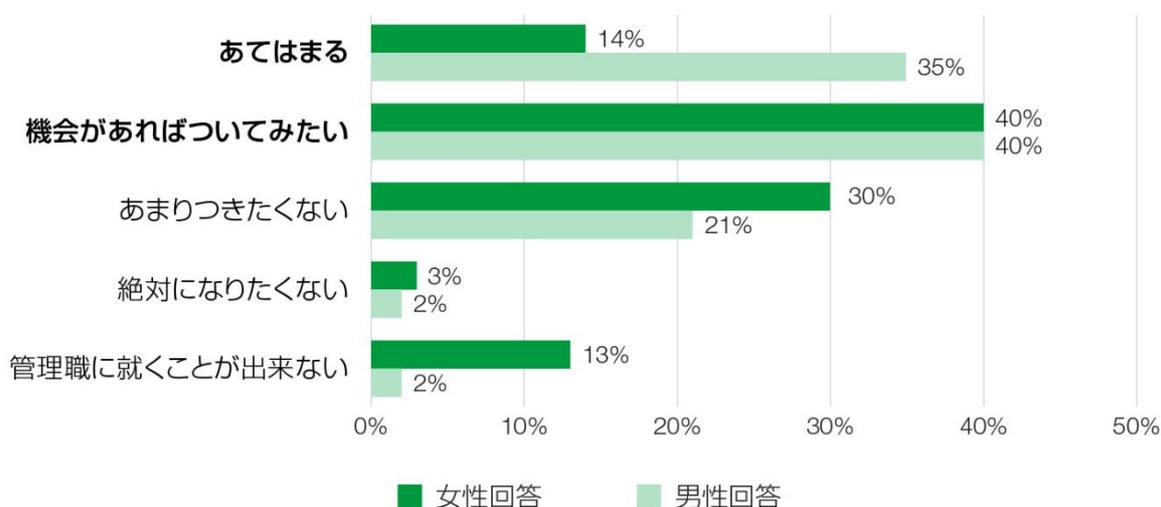
人材紹介会社 ロバート・ウォルターズ、多様な働き方・管理職

グローバル人材の転職を支援する人材紹介会社のロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：ジェレミー・サンブソン）は4月26日、語学力と専門スキルを活かして働くグローバル人材を対象に、多様な働き方、より良い働き方の追求のため、「管理職」について調査したアンケート結果を発表しました。

【管理職につきたい】男性社員：75% 女性社員：54%

75%の男性社員が「管理職につきたい」と考えていることが分かりました。一方、「管理職につきたい」と回答した女性社員は54%でした。「管理職につきたい」理由は、男女ともに1位「給与」（67%）、2位「やりがい」（55%）、3位「組織への貢献」（25%）。反対に「管理職につきたくない・つくことができない」と回答した社員の理由は、1位「ストレスが増える」（32%）、2位「家庭（プライベート）との両立が難しい」（29%）、3位「管理職に向いていない」（23%）という結果でした。

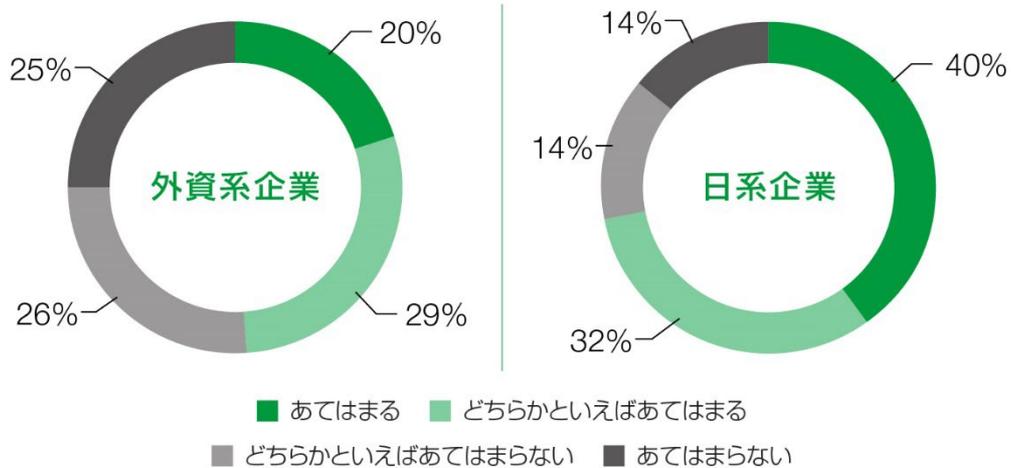
管理職につきたいと思いますか？



【昇進・昇格】日系企業で約7割が「男性の方が昇進・昇格に結びつく仕事を任されている」と回答

また、日系企業に勤務している社員の7割以上が「男性の方が、昇進・昇格に結びつく仕事を任されている」（72%）と回答。外資系企業に勤務している社員の回答は49%だったことから、日系企業は性別により仕事内容に違いがあることがうかがえます。

男性の方が、昇進・昇格に結びつく仕事を任されていますか？



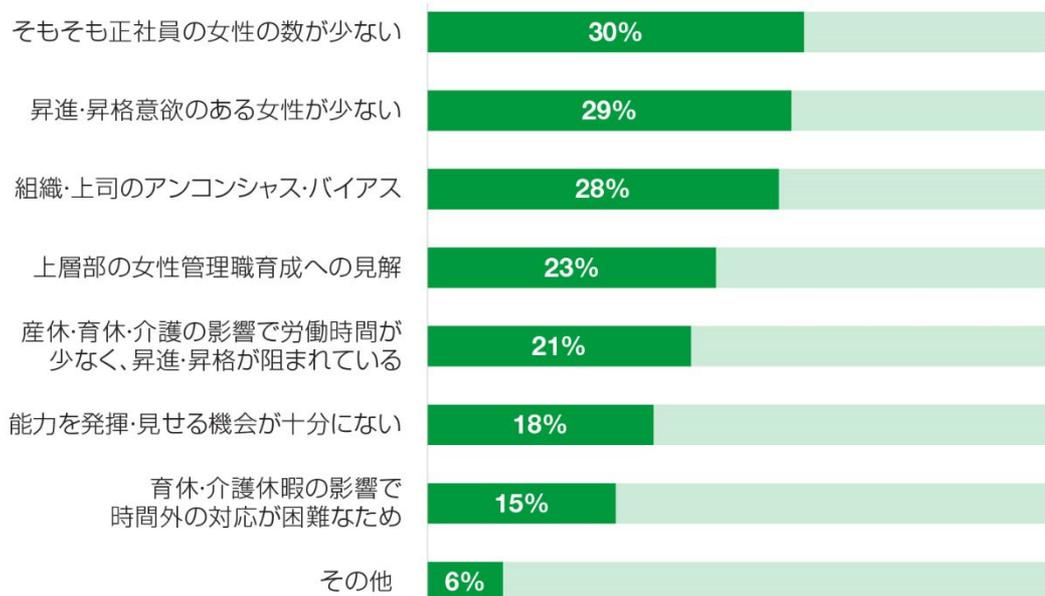
【女性管理職の割合】男女半々との回答はごくわずか

「勤務先の女性管理職の割合について」は、日系企業の会社員の42%が「低いので登用を推進すべき」と回答したのに対し、「男女の割合が半々」と回答したのはわずか3%でした。

外資系企業の会社員の回答は、「性別にかかわらず、能力・適正で判断すべき」(53%)が最も多く、「低いので登用を推進すべき」という回答は、23%にとどまりました。「男女の割合が半々」と回答したのは12%という結果でした。

「女性管理職の割合が低い」理由として、日系企業・外資系企業にかかわらず、「女性社員が少ない」(30%)、「昇進意欲のある女性が少ない」(29%)、「組織・上司のアンコンシャス・バイアス」(28%)が上位となりました。

女性管理職の割合が低いと思われる理由はどれですか？



調査期間：2022年3月10～18日

対象：当社に登録のある国内で働く会社員 n=930人

ロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社について (<https://www.robertwalters.co.jp/>)

ロバート・ウォルターズは1985年に英国・ロンドンで設立され、世界31カ国/地域の主要都市に拠点を持つ、スペシャリストのためのグローバル人材紹介会社です。ロバート・ウォルターズ・ジャパンは同社の日本オフィスで、バイリンガル人材に特化しています。2000年に東京オフィスを、2007年には大阪オフィスを開設。グローバル企業、日系企業ともに世界有数のトップ企業から新規参入企業、中小企業に至るまで、多岐に渡る業種・職種、正社員および派遣・契約社員と幅広い採用ニーズに応えた人材紹介をおこなっています。世界で戦う日本人アスリート、各種NPOの支援など日本社会への貢献にも積極的に取り組んでいます。